

米作り農業と農薬

2023年・1月22日

ネオニコチノイドについての討論会

害虫と米価及び公正な検査の問題

1. カメムシの吸汁による米価の下落

- 着色粒による価格低下 2等米は500円/30kg下落
3等米は1,300円/30kg下落

○現在は価格差が減少しているが、ネオニコが重宝されたころは収益に大きく影響した

○検査基準

カルトン中を千粒重と仮定した時、1等米0.1%、2等0.3%、3等米0.7%で概ね1・3・7粒の混入によって格付けされる
でが2等米、7粒までが3等米となる

2. 2001年から検査民営化移行

- 検査員と農家の間には利益相反の関係がある

ネオニコ系とそれ以外の農薬の効果

1. 触殺性農薬

- 害虫発生時期及び発生予察に対応した散布
- 労力・機械を必要とする上吸引の危険あり

2. 浸透移行性農薬

- 田植え時の箱処理
- 植物体内に残留移行し効率的な殺虫力を持つ
- 機械・労力の必要がなく作業者の吸引の危険もない

カメムシのくらし

1. 出穂を基準にした行動

- 当JA管内では6月中下旬頃から圃場に侵入し、出穂まで茎かの養水分を吸汁している
- 出穂後は籾の乳熟期に吸汁し食害する

2. 箱処理剤の残効性

- 乳熟期までの残効は確認されていない
- 6月中の茎からの吸汁時は残効はありとされている

米作りと除草剤

1. 除草剤の効能

- 除草剤が出来る前の米作りでは、除草作業に95時間／反費やしたとされる（農薬メーカー調べ）現在は30分
- 雑草による収量の減少は3割から5割になる事もありまた病害虫発生の原因ともなる

2. 有機栽培での除草

- 農地が担い手に集積され経営規模が大きくなった今、有機稲作での除草は可能か

ネオニコ及び除草剤の排除とJA

1. JAの収益は農産物の販売だけでは成り立たない
 - 農薬、化学肥料を使用しない栽培振興を続けることはJAの収益として大きなマイナス
 - 現状ネオニコ排除は比較的容易に取り組めるが、減少分の収益は有機質肥料や米価の向上により補完するしかない
2. 肥料高騰により堆肥や有機質肥料も連鎖高騰
 - 化成肥料を5割、鶏糞肥料を5割で窒素分量を調整する農家が増えている
 - 有機栽培者の資材入手が厳しくなる兆しが見えてきた